

エントリー学校名：鳥取県立米子白鳳高等学校

活動名：「自分もやれる」を育てる

学びの支援と自己有用感の醸成へ

解決すべき課題：1 学ぶ意欲の喚起・育成（対人関係や怠学傾向から欠席が増える生徒がある）

- 2 心豊かに他と共生する態度の育成（様々な支援が必要な生徒が多数いる）
- 3 「ふるさと」とつながる心の育成（立地地域の特色に学校が関わる機会を増やしたい）
- 4 社会的な自立に向けた支援（キャリア教育をもっと充実させたい）

※ 本校は昼間定時制、通信制 2 課程併設で、入学生の多くが不登校経験や発達障がいなどの何らかの支援が必要な生徒であり、定時制では 80% を超える。

目標・方針：1 授業時の支援を可能な限り手厚くできるよう方策を立てる

- 2 特別支援教育重点校としての取組の更なる促進を図る
- 3 地域から学ぶだけでなく、行事などに関わって、「自分たちも役に立ちたい」という前向きな心を育てる
- 4 体験的授業や、地域協働により自己有用感を育て、ふるさととつながる心を育む

活動内容：1 通級による指導の導入（平成 30 年度後半より県内高校初の導入）→①

- 2 学校設定教科「ソーシャル・スキル」の導入（通級の内容を複数の生徒を対象に令和 2 年度より）→①
- 3 中学校からの情報引き継ぎ方策とお返し訪問の実施（平成 30 年度より）→②
- 4 人的支援体制と全教職員での共通理解と合理的配慮の実施（一部平成 30 年度より）→①②
- 5 通信制での学校内託児の導入（就学への妨げの解消を支援、令和 2 年度より）→②
- 6 体験的学習・活動による地域交流と社会性の育成→③
- 7 地域行事へのボランティアやアルバイトとしての参加（平成 28 年度より）→③
- 8 コミュニティ・スクールの導入（令和 3 年度より）→③

活動の成果：1 イライラやパニックなど自分の困り感が上手く処理できるようになる

- 2 クラス内でコミュニケーションが取れるようになり、自分の思いを表明できるようになる
- 3 部活、生徒会、アルバイトも含めて、身の丈より少し上のことに挑戦できるようになる
- 4 中学生、保護者、教員からのニーズの変化：「米子白鳳しか行けない」から「米子白鳳で学びたい」へ
- 5 「特別扱い、えこひいき」ではなく、「みんなと同じように学ぶためのしくみ」と理解できるようになる
- 6 育児のため、就学を諦めざる得なかったが、育児をしながら就学できるようになり、高校卒業の道が開ける
- 7 米子市淀江地区の協力を得て、活動を通して「自分でやれた、話せた」と達成感が持てるようになる
- 8 淀江地区の人々に対して「自分も役に立てた」という自己有用感を得ることができるようになる
- 9 授業や部活以外でも地域と関わりを持ち、協働することで、自立する力を養えるようになる

アピールポイント（アイデアや工夫）：1 出来るだけ個別で手厚い支援を行い、中学まで自己肯定感が

- 少なかった生徒に「自分もやれる」という成功体験や自己有用感を体験させて、成長・自立へと導く
- 2 通級に加えて、全国的にも珍しい、複数生徒対象の学校設定教科「ソーシャル・スキル」を導入した
- 3 合格者説明会時に本人、保護者から同意書を取り、個別の支援計画以外の様々な支援のためのたくさん

の情報を中学校から引き継ぐことで、より手厚い支援ができるようになった上に、その生徒の近況を夏休みに中学校へ伝えることで、本校のミッションが理解され、評価が変化してきた

- 4 本県独自の学校裁量予算を活用して学校内の託児を導入した
- 5 旧淀江町地区の様々な人との関わりを、そのままコミュニティ・スクールの体制構築に移行できる

